

快挙

STOCK リーグ 最優秀賞・金融担当大臣賞受賞

STOCKリーグ表彰式

三月九日(土)、第三回日経STOCKリーグの表彰式、表彰チーム・審査員の懇親会が開かれた。リーグには我が校からチームJAMMYこと竹端樹里、浅原菜穂、太田原奈都乃、加藤杏、平田桃(当時いずれも二年生)が出場(敬称略)。中学・高校・大学生あわせて二二八七チーム中、最優秀賞と金融担当大臣賞を受賞した。昨年に次ぐ二年連続の両賞受賞である。

日経STOCKリーグとは、日本経済新聞社主催、野村グループ特別協賛の株式学習コンテストだ。チーム単位で自主テーマを定め、一〇・二〇の銘柄に仮想資金五〇〇万円を振り分けて投資する。その過程や学んだことなどをレポートにまとめる。

チームJAMMYは「未来の鍵を握るニッチ産業」女子高



第13回日経STOCKリーグ表彰式
主催：日本経済新聞社 特別協賛：野村グループ
後援：文部科学省、金融庁、日本証券業協会、日本取引所グループ、全国公民科・社会科教育研究会、一般財団法人日本私立学校教育研究所、公益財団法人全国商業高等学校協会

浅原 菜穂さん

昨年度の日経STOCKリーグには、一昨年度も参加し最優秀賞を頂いた太田原、入選作に選ばれた平田、浅原、加藤、今回初参加の竹端の五人で参加しました。一年生の時に作成したレポートより完成度の高いものを書き上げたい、前年度の受賞・入選レポートを読み感銘を受け、自分もこんなレポートを書いてみたい等、五人がそれぞれの想いを持って集まり、チーム結成から提出まで約九ヶ月を乗り越えました。

参加二年目のメンバーが多いので、校生の考える理想の企業」というテーマを設定。「良い日本社会にするにはどうすれば良いか」との思いから、独創的かつ成長が見込め、日常の細かいニーズに応える企業一九社を選んだ。その際「社会性」という指標に加え、「JK(女子高生)の一日」という、その事業がどの程度、メンバーの生活の中で活かされているかを点数化する独自の指標を用いた。七三ページにわたるレポートには、学校で毎朝自主的に行っていた新書勉強会等で得た知識と、企業に対するメール

ではアンケート調査や、二社(レポート作成後もう二社)を企業訪問した実体験が盛り込まれている。投資によって良い企業を育て、自らの生活もよくしていくという熱い思いを込めた。

大手町の日経ビルで開かれた表彰式には、審査員と入賞チーム関係者が出席。表彰のほか、JAMMYによるプレゼンと、審査員と受賞学生とのパネルディスカッションが行われた。プレゼンは小野先生(仕込みのアクションを交えた発表で、聴衆の中には動画を撮っていた人もいた。

式後の懇親会(立食パーティー形式)で、審査員の方々に直接お話を伺った。

◆審査委員長・慶応大学経済学部教授 吉野直行氏
「このSTOCKリーグは、レポートを通じて経済・社会を見る目を養うのが重要だ。身近なところから始めたのは良かった。調べたことをいっつかの軸でうまくまとめている。発表も良かった。」

◆日本1R協議会事務局長・首席研究員 佐藤淑子氏
「JKらしい視点を大事にしていて良い。環境や社会に貢献するとはいい、利益を出して成長しようとする企業でない」と投資はできない。その点、こ

とは長所であり、短所でもありません。昨年度盛り込んだ部分や、審査員に指摘された弱点を補強すべく早くから動き出したことは非常に良かったと思います。今回の試みである新書勉強会(週に一冊各々が経済に関する新書を読み、レジュメを作成してメンバーに内容を説明した)や、日経エデュケーションチャレンス(日経新聞社主催する、高校生が企業で働く人と直接関わることが出来るイベント)への参加は、テーマ選択に大きく影響しました。また、一昨年度に比べて三ヶ月早くスタートを切ったことで、前回のレポート提出後に感じた「本当はあれも書きたかった」「もっとあんな事をしてあげれば良かった」という後悔が無く、自分たちの今出来る最良の作品を作り

上げたという実感が得られたことが何より良かったと感じています。逆に、前年度の経験上、なるべく多くの企業に企業訪問をしなくてはならないという焦りから、いざ企業訪問をしたにも関わらずあまり質問が出ないという本末転倒な事態に陥る二年目ならではの失敗もありました。

レポート提出時は達成感で一杯で、賞への意識は薄かったため、受賞の連絡を受けた際はとても驚きました。その後表彰式で、審査員の方から、最終審査会で二年連続同じ学校に最優秀賞を与える事に対し反対意見もあった中、前年度のレポートの反省が内容に反映されている、というのが受賞の大きな決め手となったというお話を伺い、前年度の反省を生かしてより良いレポートを作る、という私達の当初の目標の一つが結果として認められた事を知り、とても嬉

良かった。他校の参加者も納得して聞いていたと思う。自分の言葉で発表する力を今後も伸ばしてほしい。五人で議論しながら一緒にやると、ばらばらでやるより大きな成果が出る。参加レポートはどれもよくできていたので、自分の周囲や企業をどれだけしっかり見ているかが差になる。

ミクロとマクロ両方の視点を持つことが今後の課題だ。身近なことを観察するのも大事だが、海外との競争力や為替レートもぜひ気にしてほしい。今一番儲けているのは外国人だ。こういう教育が広まって、仕事をすることも家庭にいる人も経済への意識を持つようになるという。

続いて女性の働く環境について何うと、「環境はだんだんよくなっているが、本当はもっとよくなり、男性優位社会だ。私は独身だが、結婚した周りの女性をみてみると、家庭と仕事を両立させるのが完璧にこなす

のレポートはプロがみて違和感のない納得のスクリーンング(企業選び)だった。前回の学びが活かされていた点も評価された。

課題は、社会性と経済性のバランスをさらに掘り下げる。二つは相反するように見えるが、結果的には一致するのだという話を、説得力をもって訴えることができるように。それには長い目が必要だ。実際の投資の現場でも、近年ESG(環境への配慮・社会貢献・企業統治)が企業を選ぶ際重要になってきている。

「私達は、これらSTOCKリーグを通して得た出会いや経験を生かして今後もそれぞれの目指す方向へ歩き続けたいと思っています。最後になりますが、私達の活動を見守り、応援して下さい。先生方、友人、家族、他レポート作成に関わって下さった全ての方々にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。」

◆加藤 杏さん
私たちは、最優秀賞の副賞としてニューヨーク研修旅行に招待して頂きました。その際に感じたことや学んだことを、一部ではありますご紹介させて頂きます。

ニューヨーク証券取引所(New York Stock Exchange)ではトレーディングルーム等を見学し、経済が目まぐるしく変動するのを肌で実感しました。所員の方に質問を

のは無理がある。どこかで手抜き、諦めがある。よい理解者のサポートは必要だ。そして、女性であることに甘えないこと。どうしても女性は身近なところに目を向けがち。「良いことだからやりましょ」といっても聞いてはもらえない。どう男を説得するか?と頭を使う必要がある。



ニューヨーク証券取引所にて



TV取材のインタビュー

「昨年第二回日経STOCKリーグでは、お茶高から今回の面々含む三チームが出場し、チームUMEHANA(現三年生)が最優秀賞と金融担当大臣賞を獲得した。(本紙第二八〇号参照)」

さらに審査員の金融庁鈴木啓嗣氏と野村証券の海津政信氏も、「JAMMY」のレポートは、日経STOCKリーグのホームページで読むことができる。

メンバーの五人は、審査員のみならず、他の受賞チームの筑波大附属駒場高校などの生徒と話したり、テレビの取材に応えたりと、並んだ料理を手取る暇もなく会場を回っていた。

表彰式後、五人は最優秀賞の副賞であるニューヨーク研修旅行に出掛け、野村証券の交流会で、また全校生徒に向けてプレゼンをしたりと、精力的に活動した。JAMMYのレポートは、日経STOCKリーグのホームページで読むことができる。

また、野村証券の昨年もお話を伺った女性は、「全てのレポートの中でずば抜けてよくできていた。テーマに対するきめ細かいアプローチ、丁寧な調査がすごい。たくさんの中から抽出した知識に支えられて、理想だけに走らず現実の利益も考えて企業をみている。社会と経済を見る目がしっかりしている。他校の参加者も、お茶の水のレポートを読んで励みにしているのではないかと話された。

JAMMYのレポートは良かったとおっしゃった。

また、野村証券の昨年もお話を伺った女性は、「全てのレポートの中でずば抜けてよくできていた。テーマに対するきめ細かいアプローチ、丁寧な調査がすごい。たくさんの中から抽出した知識に支えられて、理想だけに走らず現実の利益も考えて企業をみている。社会と経済を見る目がしっかりしている。他校の参加者も、お茶の水のレポートを読んで励みにしているのではないかと話された。